

## 丹波市自治協議会のあり方懇話会からの提言（仮題） 骨子

### 1 懇話会の目的

#### (1) 懇話会の目的

- ①自治協議会の役割の合意形成を図るための考え方の提案
- ②目指すべき自治協議会の実現に向けた支援の提案

#### (2) 検討の進め方

- ①自治協議会の制度発足時の考え方を探る
- ②現状での自治協議会のあり方を押さえる
- ③丹波市以外での類似自治協議会のあり方を調べる
- ④これからの丹波市に相応しい自治協議会を考える
- ⑤相応しい自治協議会を実現するための方策を考える

### 2 丹波市における自治協議会設立の経緯等

#### (1) 丹波市における自治協議会設立の経緯

#### (2) 自治協議会設立の背景

- ①自治協議会制度の創設経緯
- ②自治協議会の形成過程
- ③総合計画における「参画と協働」
- ④参画と協働プロジェクトを進めるための自治協議会の役割と期待

#### (3) 高齢化等による自治組織の担い手不足

#### (4) 人口推計、年齢別人口推移

#### (5) 新しい「公」の領域の考え方

#### (6) 自治基本条例における自治協議会制度の考え方

- ①自治基本条例で制度化した理由
- ②自治基本条例が想定した自治協議会の性格、役割及び活動

### 3 自治協議会の現状と課題

#### (1) 自治協議会の現状の概要

#### (2) 自治協議会の役割等に関する現状認識

- ①自治協議会役員の認識
- ②市民の認識
- ③行政職員の認識

#### (3) 現状における自治協議会の課題

- ①自治協議会の役割等に対する合意形成
- ②組織的・体制的課題

- ③ 活動にかかる課題
- ④ 人材にかかる課題
- ⑤ 財政的課題
- (4) 課題解決の方向性

#### 4 他の類似の自治協議会制度

- (1) 雲南市の自治協議会制度
  - ① 自治協議会制度の発足の経緯
  - ② 概要
- (2) 宝塚市の自治協議会制度
  - ① 自治協議会制度の発足の経緯
  - ② 概要
- (3) 朝来市の自治協議会制度
  - ① 自治協議会制度の発足の経緯
  - ② 概要
- (4) 三田市の自治協議会制度
  - ① 自治協議会制度の発足の経緯
  - ② 概要

#### 5 丹波市におけるこれからの自治協議会

- (1) 地域の将来像
  - ① 人口、年齢構成等の将来予想
  - ② 地域の具体的な将来像
- (2) 自治協議会の性格の類型
  - ① 統合型
  - ② 補完型
  - ③ 支援型
- (3) 中間報告後に協議した具体的な項目について
  - ① 自治会と自治協議会のあり方
  - ② 地域づくり計画のあり方
  - ③ 行政との連携のあり方
  - ④ 行政に影響されない（頼らない）地域経営のあり方
  - ⑤ 人材育成のあり方

## 6 あり方懇話会が考える自治協議会の姿

地域の将来像に相応しい自治協議会のあり方（自治基本条例が想定する姿）

- ① 地域ごとのあり方の多様性
- ② 性格、役割等
- ③ 行政との関係
- ④ 自治会等との関係
- ⑤ 活動内容
- ⑥ 組織
- ⑦ 財源

## 7 目指すべき自治協議会実現に向けた支援策

## 8 参考資料

- (1) 市内外で取り組まれる好事例
- (2) 中間報告書概要
- .....
- .....

### 【補足説明】

骨子大項目	説明
1～3	中間報告（H30）までに確認した内容を中心に整理 「みんなで楽しくまちづくり」多様な団体個人が参画する組織
4	中間報告（H30）の協議や研修で確認した参考となる事例及び小規模多機能自治の代表的な事例を提示
5～7	<p>★「みんなで楽しくまちづくり」のため考えた論点項目（R元）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 自治会と自治協議会のあり方</li> <li>② 地域づくり計画のあり方</li> <li>③ 行政との連携のあり方</li> <li>④ 行政に影響されない（頼らない）地域経営のあり方</li> <li>⑤ 人材育成のあり方</li> </ul> <p>★あり方懇話会が考える自治協議会の姿 ○目指すべき自治協議会実現に向けた支援策</p>
8	今後、地域で組織や活動をそれぞれに考えていく際に、参考となる情報や資料を掲載

※★印は、第9回あり方懇話会において協議いただく内容  
○印は、懇話会の協議を受けて市が検討する支援策

## 地域の将来像に相応しい自治協議会のあり方

## 『みんなで楽しくまちづくり』に取り組める組織

## ○自治とまちづくりが一つとなる地域を目指す

自治会を主たる構成組織とし、地域を代表とする行政の協働のパートナーが自治協議会となるよう多様な団体や個人が参画できる地域活動を目指す。

自治会と自治協議会の組織や活動に調整が必要な地域は、地域で考える協議の場をもちながら、地域に相応しい自治と活動が行うことができる組織や仕組みを地域で決める。

## 目指す姿

## 【組織・活動】

- ・地域住民が地域の目指す姿、目標が共有できている
- ・誰でも参画でき地域住民からの多くの提案が反映されている
- ・単位自治会が自治協議会に参画し、情報共有が常に図られている
- ・事業や会議、活動の棚卸しがされ、役員の負担が軽減されている

## 【情報共有・意思疎通】

- ・意見が言いやすく地域住民からの提案を反映する機会がある
- ・円滑に共有すべき情報を得ることができ、対等な立場で協議ができている。
- ・地域内の情報が共有でき、必要な情報が伝わり、活動に参加しやすい。
- ・事業や活動について、時間をかけて議論し、取り組んだ事業の成果や振り返りができる。

## 【地域づくり計画】

- ・市と地域とが一緒（両輪）になって市の重要課題に取り組む。
- ・地域組織と住民とが地域の目指す姿・目標を共有する。
- ・参画と協働の理念のもと、誰もが構成員として参画できる計画づくり。
- ・地域のニーズを把握し、地域特有の課題解決に取り組む。

**目指す姿****【自主財源の確立、コミュニティビジネスの展開】**

- ・地域資源の活用や既存事業の工夫により、無理のない範囲で一定の財源確保ができています。（施設使用料、受託事業（広報配布事業）など）
- ・無理のない適度な会費の負担で地域が運営されている状態（身の丈に合った組織運営）。
- ・地域活動の持続性を高めるために、目的をもって自主財源が確保されている状態。
- ・地域の団体や企業との連携・協力（資金援助・現物支給・場所提供等）により自主財源が確保できている状態。
- ・市民活動支援センターなどの中間支援により、補助申請等の仕方を学べ、補助金等の活用できている状態。

**【総働や多様な人材が参画する機能的な運営】**

- ・事業や活動の整理統合によりスリム化され、負担感が軽減されている状態。
- ・魅力ある事業あり、誰でも参加しやすく、現役世代、次世代、助成でも役割を担え、積極的に参画し、楽しんで活動をしている状態。
- ・多様な個人、組織（地域団体、NPO、福祉事業者の専門事業者など）との連携がとれ、地域課題についてみんなで関わっている状態。
- ・役員が固定化せず、交代制でも担える状態。
- ・市民活動支援センターなどの中間支援より、情報の活用や組織運営のノウハウを学べる状態。

**【若者や女性の参画を通じた人材育成】**

- ・地域内の様々なグループが繋がっている状態
- ・若者や女性が各年代を通じて、顔を合わせる機会が多く、多くの意見で議論される状態
- ・一人一人が主役となって、若者も女性も含め、誰もが参画・参加でき、活発な活動が展開されている状態

**【潜在的な地域の人材の掘り起こし、高齢者の活躍の場づくり】**

- ・自分の得意な分野を活かした地域活動ができています
- ・地域内の人々が年代を越えて繋がり、誰もが地域に対する愛情が深まっている状態
- ・高齢者の役割があり、生き生きと生活している状態
- ・人づくりにより、後継者なる人材確保ができています

## ○地域と行政が協働する

協働のパートナーとして相互の信頼関係を築き、自主性・自立性を尊重し合い、お互いが目指す目的を明確にし、思いを共有することが大切である。市民と行政の役割を明確にし、協働することによって相乗効果により、市の課題、地域課題の解決に結びつける。

### 目指す姿

#### 【事業展開のうえでの連携体制の構築】

- ・施設の長寿命化となるように、計画的な改修ができる状態。
- ・施設の老朽化による不便がない状態。
- ・必要な維持管理・改修が滞りなく行われている状態。
- ・事業の棚卸しにより、地域に必要な事業へ必要な交付金が活用されている状態。
- ・地域で決めた地域づくり計画が市の計画ともリンクし、交付金活用の効果が生まれる状態。
- ・地域コミュニティ活動推進員等の業務量に応じた人件費が確保されている状態。

#### 【まちづくり指導員、市職員】

- ・まちづくり指導員の専門性が高まり、関係部署と地域とのコーディネーターとして地域から信頼されている状態。
- ・市職員が地域住民として地域に関わるとともに、その経験から地域と信頼関係が築かれ、地域運営や公務にも役立っている状態。
- ・地域ニーズに合った効果的な業務につながり、業務上の負担が軽減され、地域に関われる精神的ゆとりが生まれている状態。
- ・誰もが地域に誇りや愛着をもっている状態。
- ・誰もが積極的に地域参画し、それぞれの強み（知識・技能・人間関係）を活かし合う。

#### 【双方向の情報共有と協働体制の構築】

- ・自治会、自治協議会、行政の補完関係が確立され、相互理解のもとで協力し合い、相互の情報伝達・連携が円滑にできている状態。
- ・行政の施策・方針と地域のニーズが一致し、地域づくりが地域主体で行われている状態。
- ・各地域が必要に応じて支援を受けつつ、自立していきいきと活動できている状態。
- ・自治協議会や自治会、市民、行政が共に方針や方向を共有し、それぞれが責任をもって役割を担い合っている状態。